

平成25事業年度の特色ある取組(レジюме)



平成26年8月20日

大分大学の基本的な目標

(第2期中期目標前文より)

本学は大分大学憲章が示す目標を達成すべく、有為な人材の育成に努めるとともに、教育・研究・医療・社会連携への取り組みを通して特色ある大学づくりを目指し、もって総合大学としての機能の高度化や地域における「知の拠点」としての役割を果たす。

1. 知識基盤社会に求められる人材の育成

基礎的な学力に裏打ちされた高い専門知識とともに、柔軟な思考力と創造性を身に付け、知識基盤社会で活躍できる自立した人材の育成を目指す。時代や社会の要請及び学問の発展に対応した人材育成を行うために、教育研究組織の再構築を目指す。

2. 特色ある大学づくり

大学の個性化と高度化を目指し、大学院レベルの教育で目指す「高度の専門職業人養成」、学部レベルの教育による「幅広い職業人養成」、及び全学的な教育、研究、医療活動が役割を担う「社会への貢献」において、本学の特色を発揮する。本学が「ナショナルセンター」に相応しい実績を有する分野については、「世界的な教育研究拠点」を目指す。

3. 地域社会との共生・発展

大分県に立地する唯一の国立大学として、この地域における「知の拠点」として機能するとともに、地域の活性化に貢献する「リージョナルセンター」としての役割を果たす。

4. 発展を支えるマネジメント体制と安定した経営基盤の構築

運営体制の改革と安定した経営基盤の構築に努め、弾力的で効率的な大学経営の実現を目指し、質の高い管理運営組織を整備する。

1. 知識基盤社会に求められる人材の育成

1-1 高大接続事業の推進 (P. 4) 【3】

後学期教養科目「カタリバでキャリアを拓く」
目標 本学学生が「ナナメの関係で高校生の心に火をつける」

対話力の向上 → 「ナナメの関係」を築く
 具体的な役割を学習
 ・先輩役
 ・サンプリング者
 ・プロジェクトマネージャー (PM)
 ・コアスタッフ

大学生が“高校生からかっこよく頼られ、憧れられる存在”になるためのスキルを学習

大学生と高校生のキャリア形成
キャリアアップ

大学生 37名 訪問

平成 25 年 11 月 30 日 大分県立安心院高等学校 (1,2 年生 63 名)
 平成 26 年 2 月 21 日 大分県立由布高等学校 (2 年生 128 名)

NPO 法人カタリバと連携



安心院高等学校訪問



由布高等学校訪問

継続事業

チャレンジ講座	高校生 3,129 名が参加
学問探検ゼミ	高校生 17 名が参加
高大接続授業	前期約 400 名、後期約 350 名の高校生が参加
キャンパス大使	22 高校に大学生 34 名を派遣
出前講義	15 高校へ出向き実施
大学訪問	12 高校から高校生 604 名、保護者 163 名の訪問
キャンパスレポーター	高校生 3 名が従事

1-2 起業家精神の涵養と産業界で活躍できる人材育成 (P.6) 【34】

学内の取組	産学官連携推進機構による教育活動 学生による「ベンチャー・ビジネスプランコンテスト」 公開プレゼンテーション審査
	審査員奨励賞 事業名：「インターネットを用いた学生向け情報発信事業 ～大分の学生に密着したローカルでニッチなポータルサイト～」
	産学官連携推進機構による プレゼンテーション技術等についてのブラッシュアップ

平成24年度に 引き続き 優秀な成績	平成 25 年 10 月 平成 25 年度おおいた学生起業家コンテスト 最優秀賞 (主催：大分県)
	平成 25 年 12 月 第 13 回大学発ベンチャー・ビジネスプランコンテスト 優秀賞 九州大会 (主催：九州経済産業局、九州経済連合会等)

1-3 教育医長の配置 (P.10) 【該当計画無し】

目的 ○医学部医学科の学生の卒前臨床教育及び 研修医の卒後研修の充実 ○臨床実習・臨床研修に係る教育業務の円滑 な運営	役割 ○所属する講座・診療科での学生及び研修医の臨床教育・指導を担当 ○当該講座・診療科の臨床実習・臨床研修において、学生及び研修医の出欠管理、 臨床指導並びに実習・研修評価についての実務責任者
--	---

2. 特色ある大学づくり

2-1 学際的研究の推進 (P. 6) 【28、26】

平成 24 年度学長裁量経費	組替え	平成 25 年度学長裁量経費
教育改革支援▶	教育改革支援
研究推進支援▶	
若手研究者萌芽研究支援▶	
社会連携推進▶	社会連携推進
国際活動推進▶	国際活動推進
教育研究診療設備支援▶	(設備マスタープランにて措置)
ベンチャー・ビジネス支援▶	ベンチャー・ビジネス支援
重点領域研究推進▶	重点領域研究推進

平成 25 年度戦略的創造研究推進事業
(CREST・さががけ・ERATO)
新規採択課題：
エネルギーキャリアとしてのアンモニアを合成・分解するための特殊反応場の構築に関する基盤技術の創成

平成 25 年度 重点領域研究推進
アンモニアからのユビキタスな水素製造プロセスの構築

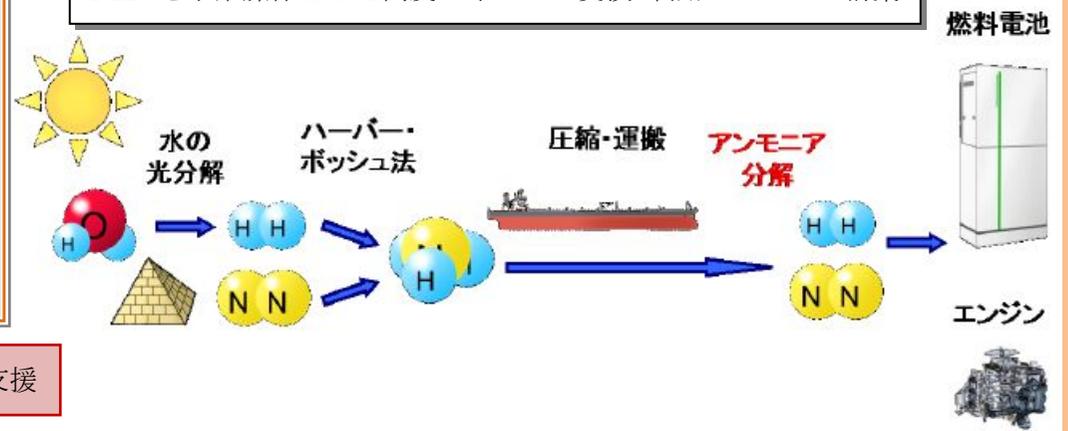
平成 23 年度 重点領域研究推進
NH₃ を水素媒体とした高度エネルギー変換・利用プロセスの構築

平成 25 年度 重点領域研究推進 (4 千万円→8 千万円)

学長が研究テーマと研究グループを定めて配分
研究グループ

- I. 地域社会との連携を目指す研究グループ
- II. **新しい技術に基づく工学イノベーション開発研究グループ**
- III. 疾病モデルの構築による病態解明グループ
- IV. ヒト癌分子標的薬開発につながる基礎研究グループ
- V. 生活習慣病と老化の病態解明研究グループ
- VI. 国際レベルの疫学研究グループ

学長裁量経費は本学の優れた意欲的な取組や外部資金の獲得を支援



2-2 東九州メディカルバレー構想の推進 (P.6) 【30】

平成 25 年 5 月 28 日

タイ王国、ベトナムなど 8 カ国 17 名の政府高官等の視察

大分県・宮崎県が主催した「日本における人工透析技術セミナー」のプログラムの一つとして実施

目的 産学官連携による血液・血管医療を中心とした人材育成等の照会及び意見交換

平成 25 年 6 月 24 日

タイ王国の腎臓専門医 5 名 (JETRO 関係者 21 名) の視察

JETRO (日本貿易振興機構) の「海外有識者招へい事業 (タイ王国・透析分野)」の一貫

目的 日本の透析技術等を紹介

平成 25 年 6 月 28,29 日

メディカルイノベーションフォーラム 2013

目的 本学の取組を企業関係者に広く周知することにより、本学の治験の活性化や医療機器等の開発、産学官連携の研究をより一層積極的に推進

平成 25 年 9 月 20 日

平成 26 年 2 月 21 日

医療機器ニーズ探索 交流会

目的 医療機器開発の手助け



**大分大学
メディカルイノベーション
フォーラム 2013**
～アジアへ羽ばたけ、大分発の医療～

平成25年
日程 6月28日(金)～29日(土)
場所 大分オアシスタワーホテル

- 6月28日(金) 講演会 13:30～
 - ・主催者挨拶 医学部長 大橋 京一
 - ・セミナーⅠ 「大分大学における東九州メディカルバレー構想の取組み」
医学部 臨床医工学講座教授 穴井 博文
 - ・セミナーⅡ 「がんの新しいバイオマーカー発見への取組み」
医学部 分子病理学講座教授 守山 正胤
 - ・セミナーⅢ 「アルツハイマー病に対する臨床研究」
医学部附属病院 神経内科講師 木村 成志
 - ・セミナーⅣ 「呼吸器疾患に対する臨床研究への取組み」
医学部附属病院 内視鏡診療部助教 白井 亮
 - ・セミナーⅤ 「抗体を用いた新興・再興感染症の診断・治療薬の開発」
医学部 微生物学講座教授 西園 晃
 - ・大分大学医学部における治験・臨床試験の実施体制の紹介

懇談会(会費制) 17:30～

- 6月29日(土) キャンパスツアー 10:00～

主催/大分大学医学部 後援/大分県

Medical Innovation 2013

3. 地域社会との共生・発展

3-1 県民の生涯学習支援や指導者育成 (P. 8) 【37】

文部科学省「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」

おんせん県おおいた・別府型ドリームプロジェクト 「温泉コンシェルジュ」養成

- ・まちづくりや地域の活性化に課題を抱える行政や企業
- ・地域活動を続ける組織・団体
- ・高等教育機関や医療機関等の専門的領域の関係者

枠を超えてそれぞれの役割(長所)を繋げ融合

県内の生涯学習支援や指導者育成のネットワーク拡大

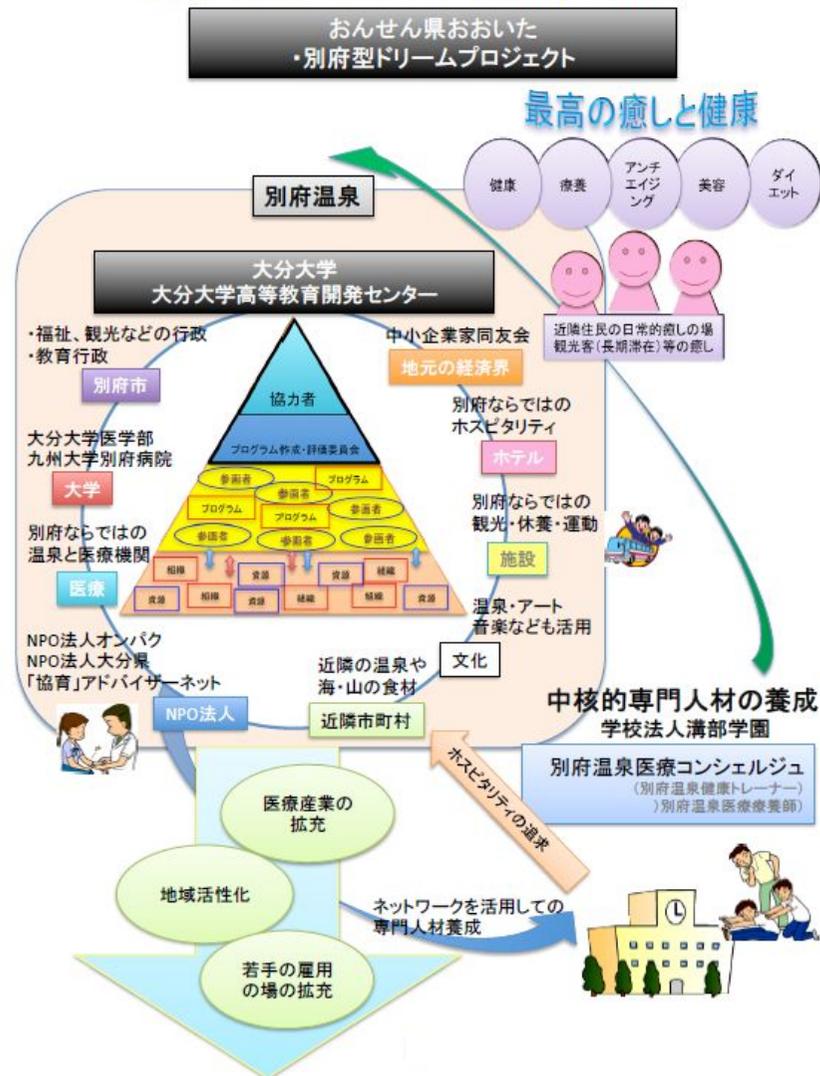
これまでの取組を継続

協育アドバイザー養成講座(初級・中級・上級)

家庭・学校・地域社会の教育の協働の推進

- ・子どもの健全育成や家庭教育への積極的な支援
- ・福祉と教育の融合
- ・大人社会の再構築を推進する中核的な人材育成

事業名: 温泉と健康・医療をつなぐ別府温泉医療コンシェルズ等養成事業
* 別府の温泉で地域と日本を元気に~別府の新しい魅力発見~*



3-2 国内外の大学連携 (P.5)【14】

国内(県内)の大学連携

「とよのまなびコンソーシアムおおいた」の事業

- 連携授業「大分の人と学問」(後期集中講義) 62名(県内4機関)
- 生涯学習支援事業「豊の国学」のべ300名超
 - ・豊の国学「豊の中央講座」(7講座)
 - ・豊の国学「分野別講座」(5講座)
 - ※豊の国学「関連講座」(4講座)、「協賛講座」(5講座)
- 特色ある授業科目を相互に開放するため県内9つの高等教育機関による単位互換協定の締結 平成26年3月31日

国外の大学連携

学長裁量経費による「大分大学派遣留学生支援事業」により継続して支援し、国際交流協定に基づき派遣

- 短期留学33名(16大学)
- 1ヶ月以内の語学研修19名(4大学)

3-3 附属病院 救命救急センターの機能強化及び地域医療への貢献 (P.10)【47-1】

診療体制の整備

- 災害対策室の設置
- 救急患者(重症外傷、広範囲熱傷、指肢切断、急性中毒、脳血管障害、虚血性心疾患)の受入れ
- 看護師の増員
- 各診療科との連携

平成25年10月 大分県から高度救命救急センターに指定

高度な医療の提供を行うとともに救急医等の養成、研修医・学生の教育に役立てる

救急医療・災害医療の拠点となるため、ドクターヘリ基地病院としての管制塔機能を担うための必要な整備

- 備蓄庫の建設
- 固定式衛星電話の設置
- ポータブルリチウムイオン蓄電池の購入

平成26年3月 大分県から地域災害拠点病院に指定

4. 発展を支えるマネジメント体制と安定した経営基盤の構築

4-1 マネジメント体制の整備 (P. 12) 【59】

新たな理事体制

(平成 25 年 10 月 1 日)

- ◇ 企画・人事・男女共同参画等担当
- ◇ 教育担当
- ◇ 研究・国際・医療担当
- ◇ 社会連携担当

学外者から登用

新たな学長補佐体制

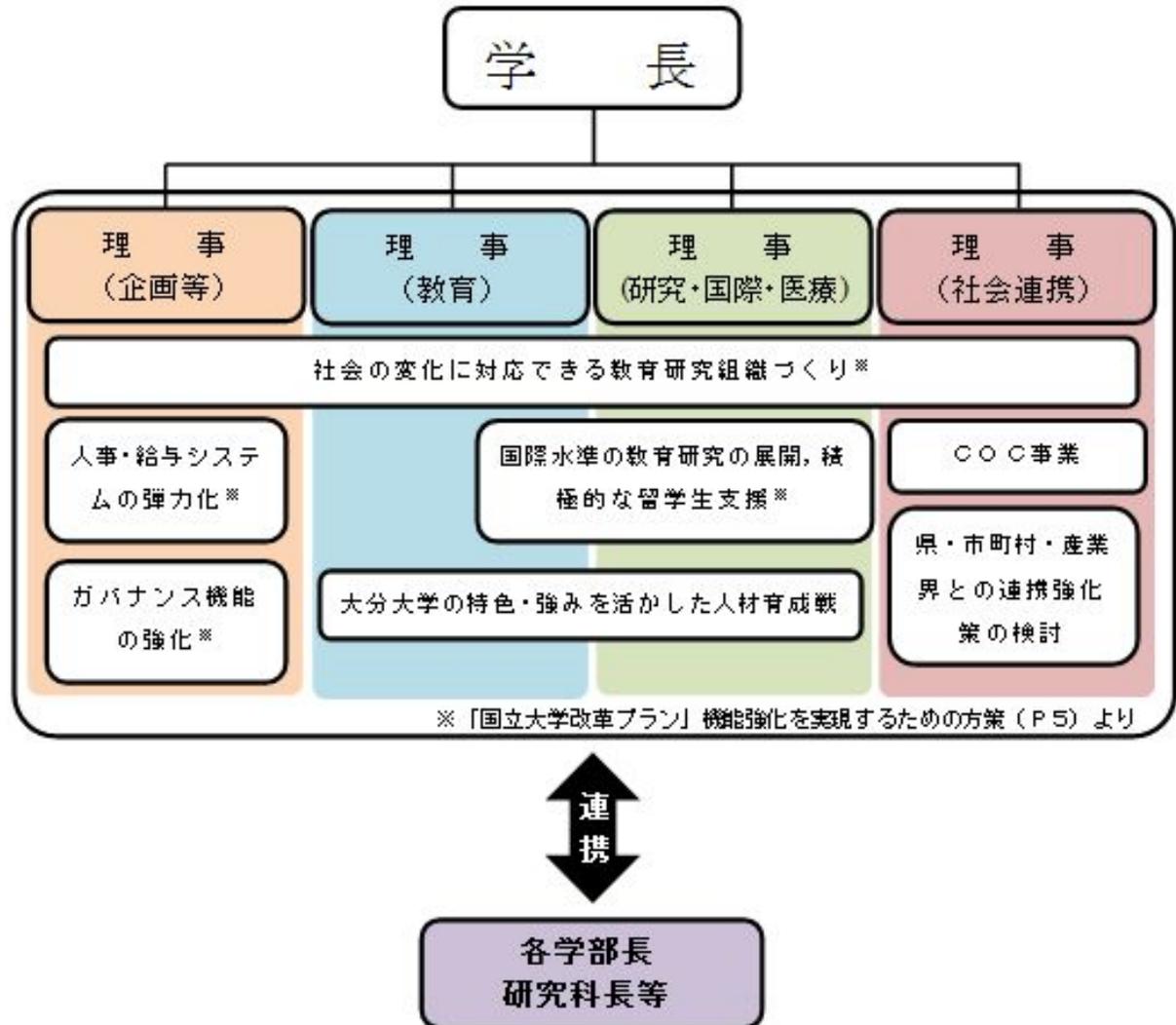
(平成 25 年 10 月 1 日)

- ◇ 広報戦略担当
- ◇ 男女共同参画推進担当
- ◇ 地域医療担当
- ◇ 認証評価担当
- ◇ 国際担当 (新規)
- ◇ 研究担当 (新規)
- ◇ 社会連携担当 (新規)

新たな学長特別補佐体制

(平成 25 年 10 月 1 日)

- ◇ 禁煙推進担当 (新規)



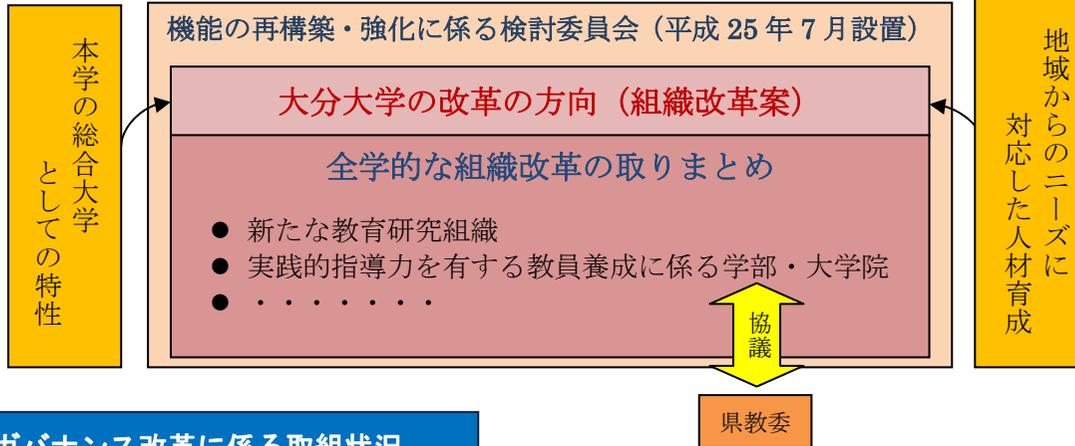
「今後の国立大学の機能強化に向けての考え方」を踏まえた取組状況 (P.12)【16、58、59】

○ 大分大学の機能の再構築・強化に係る取組状況

本学の機能の再構築・強化の戦略的視点と基本的方向性、具体的方策などの方針を示した基本方針

集約

具体化



○ ガバナンス改革に係る取組状況

大分大学でのガバナンス改革について

- 学長のリーダーシップの確立
- 教授会の役割の明確化
- 学長の選考・業績評価
- 監事の役割の強化
- 学部長の選考・業績評価
- その他のガバナンス改革



大分大学統合10周年記念式典
学長挨拶、印刷・配布

平成 24 年度評価結果に対する対応状況【寄附金の個人経理について】 (P. 51) 【85】

平成 24 年度評価結果

職務上行う教育・研究に対する教員等個人宛ての寄附金について、個人で経理されていた事例があったことから、学内で定めた規則に則り適切に処理するとともに、その取扱いについて教員等に周知徹底するなどの取組が求められる。

対
応
状
況

平成 25 年 4 月

「研究費使用ハンドブック」を更新し配布
(同封)

- ・ 教員個人宛て寄附金の経理の適正な取扱いについて (通知)
- ・ 寄附金について (寄附金の受入れ、受入れの流れ)
- ・ 不正使用を行った研究者に対する応募資格の制限の改正について (競争的資金の適正な執行に関する指針)

平成 25 年 6 月

「研究助成金等の経理に係る取扱い」を発出

平成 25 年 8 月

「研究活動に係る不正行為及び研究費の不正使用の防止に向けて (国大協会長声明)」を発出

平成 26 年 1 月

「研究助成金 (寄附金) ハンドブック」を作成し配布

研究費使用ハンドブック



平成25年3月
国立大学法人 大分大学

研究費使用ハンドブック (平成25年3月改訂)

- ① 研究費の不正使用についての解説
- ② 本学において研究費を適切に使用方法
- ③ 研究費の種類によって異なるルール
- ④ 研究費の用途
- ⑤ 競争的研究費で使用できないこと
- ⑥ 教職員が心掛けること
- ⑦ 不正使用情報の通報窓口
- ⑧ 不正使用認定後の処分等について

など

助成団体等からの
研究助成金
(寄附金)
ハンドブック



平成26年1月
国立大学法人
大分大学

研究助成金 (寄附金) ハンドブック

- ① 助成金について
- ② 公募情報の取得について
- ③ 応募手続きについて
- ④ 採択後の手続きについて
- ⑤ 寄附金の取扱い等について
- ⑥ 研究等の開始について
- ⑦ 研究等の終了について

など